

## 美しい多摩川フォーラム・第1回運営委員会議事録

日 時：平成19年11月3日(土)13:30～15:45

会 場：フォレスト・イン昭和館(昭島市)1階フリージア

出席者：会長 篠塚 英子 お茶の水女子大学教授  
副会長 森田 昇 青梅信用金庫理事長  
部会長 細野 助博 中央大学大学院教授  
" 下重 喜代 (有)ネイチャー&カルチャー  
委員 藤井 智之 (独法)森林総合研究所多摩森林科学園園長  
" 武井 良仁 京王電鉄(株)広報部長  
" 竹本 久志 狛江水辺の楽校副代表  
" 山崎 眞義 北斗理研(株)代表取締役  
" 井上 松男 青梅・多摩川水辺のフォーラム事務局長  
" 保多 由子 東京純心女子大学芸術文化学科教授  
" 渡邊 學而 音楽評論家  
" 日下 直喜 昭島市企画部長(昭島市長代理)  
" 諸角 恒男 八王子市産業政策課長(八王子市長代理)  
" 小笠 俊樹 日野市緑と清流課長(日野市長代理)  
" 中村 敏郎 青梅市都市開発部道路交通政策担当主幹(青梅市長代理)  
顧問 小倉 紀雄 東京農工大学名誉教授  
" 高橋 陽子 (社)日本フィランソロピー協会理事長

(敬称略、以下同様)

配布資料：(資料 1)美しい多摩川フォーラム設立総会議事録  
(資料 2)美しい多摩川フォーラム臨時運営委員会議事録  
(資料 3)月刊「信用金庫」平成19年11月号(全国信用金庫協会)掲載予定原稿  
(資料 4)第1回シンポジウムに関するアンケート調査結果  
(資料 5)美しい多摩川フォーラム会員の状況について  
(資料 6)多摩川流域におけるサクラの現況調査へのご協力のお願いについて  
(資料 7)観光ルート設定用の桜木の調査票  
(資料 8)美しい多摩川フォーラムの当面の計画(19～20年度)  
(資料 9)美しい多摩川フォーラム・ホームページのトップページ  
(資料10)美しい多摩川フォーラム・第1回地域経済活性化部会の開催について  
(資料11)美しい多摩川フォーラム・第1回環境清流部会・教育文化部会の開催  
について

(資料12) みんなの生涯学習 88(東京都)

(資料13) 平成19年度事業計画の追加・変更(案)について

その他、小倉顧問が当日に配布した2枚の資料(別添)

## 1. 事務局説明

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム・第1回運営委員会を開催したいと思います。本日の運営委員会ですが、運営委員45名中、委任状による代理人出席を含め17名の委員が参加され、書面議決書による議長一任の委員26名を加えて、43名ということで、当フォーラムの規約第12条第4項により、本運営委員会は成立しております。

## 2. 篠塚会長開会挨拶

本日は文化の日ということで、色々ご事情がお有りのところをご参集頂きまして、どうも有り難うございました。今日は第1回運営委員会ということで、大きな議題もございますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

早速ですが、この第1回運営委員会ですが、当フォーラムが7月21日に発足致しまして、9月22日にはシンポジウム開催ということで、2カ月おきに皆様にお会い出来て光栄でございます。19年度としては、あと2回ほど運営委員会が予定されております。この運営委員会では、一番基礎的な重要なところを固めていきたいと思っております。本来、美しい多摩川フォーラムという運動は100年の計画でございますから、今年は100分の1ということになります。10年というのはあっという間に経ちます。10年が10回繰り返されると、どういうことになるかといったことを頭に描きながら、100分の1ですけれども、皆様のお力を拝借したいと存じます。それでは、今回の次第に従って進めていきたいと思っております。まず、経過報告ということで、事務局より幾つかのご報告がございます。

## 3. 経過報告

### (1) フォーラム設立総会の開催状況について(資料1)

(宮坂事務局長) これは設立総会の議事をまとめたものです。私どもがこれから色々考えていく上で、示唆に富む発言が多かったので、今回提出した次第です。当日は一般来場者も含め230名の方が参加され、盛会のうちに終わりました。

(篠塚会長) 有り難うございます。この(資料1)のような議事録や詳細な書類はどこに保存されているのか？運営委員会のメンバーが見るだけなのか？フォーラムの会員が見せてほしいと言ったら見せてもらえるのか？開示・非開示の状態について教えて下さい。

(宮坂事務局長) お手元の資料の(資料9)に美しい多摩川フォーラムの「ホームページ・トップ画面」がありますが、画面中央の「フォーラムの会報・各種議事録」という部分をクリックして頂き

ますと、今回の殆どの資料が現れるということで、一般の方にも公開されております。

## (2) フォーラム設立総会後の臨時運営委員会について(資料2)

(宮坂事務局長) フォーラム設立総会終了後に開催された「臨時運営委員会」において承認されたことが3点あります。第1は、当フォーラムに活動部会として3つの部会を設置した件です。地域経済活性化部会、環境清流部会、教育文化部会の3つの部会が設置されました。第2は各部会の部会長として、地域経済活性化部会長には細野助博・中央大学大学院教授、環境清流部会には、福田珠子・全国林業研究グループ連絡協議会副会長、教育文化部会長には下重喜代・(有)ネイチャー & カルチャー代表取締役がそれぞれ就任しました。そして3番目はアドバイザーを置いたことであります。東京都の建設局には多摩川流域に6つの建設事務所がありまして、その代表として、西多摩建設事務所長様に当フォーラムの運営委員になって頂き、それ以外の5つの事務所長様につきましてはアドバイザーにご就任頂いております。臨時運営委員会では、以上の3点が承認されたということでもあります。

## (3) フォーラム設立以降の活動状況について(資料3)(資料4)

(宮坂事務局長) (資料3)ですが、これは全国信用金庫協会の機関誌「信用金庫・11月号」に掲載予定の原稿です。美しい多摩川フォーラムの概要や設立以来の活動も含めて、ひととおりまとめましたので、参考になるかと思えます。その中で、4ページの見出しに「順調にスタートした活動」とありますが、簡単にご紹介します。まず、フォーラム設立直後の8月初めに、「多摩川1万人清掃大会」ということで、御岳渓谷をメイン会場とする多摩川の散乱ごみの収集活動に参加しました。青梅信用金庫では従来からこの運動に積極的に参加していたのですが、今回から美しい多摩川フォーラムとして参加致しました。一方、このフォーラムの設立後間もなく、東京都の教育委員会の方から、「地域力を活用した青少年の育成事業」の一環として、「多摩川の森の環境教育」事業が私どもフォーラムに委託されました。この事業につきましては、フォーラムの教育文化部会と環境清流部会がそれぞれ関係するため、共同で実施致しました。本件は(資料12)東京都の「みんなの生涯学習」( 88)の4ページに、フォーラムの活動が早速紹介されております。これはそもそも、スウェーデンで50年の実績がある幼児教育プログラムを多摩川流にアレンジし、付加価値をつけて実施したものです。この取り組みにつきましてはかなり注目されておりまして、今後、「多摩川の森方式」として全国に発信していきたいと考えております。次に(資料3)の4ページ最後から5ページにかけて記載のとおり、フォーラムの第1回シンポジウムが開催されました。第1部では私どもの副会長でもあるダニエル・カールさんに、「多摩川からはじまる未来のまちづくり」と題して基調講演を行って頂き、第2部ではフォーラムの篠塚会長の進行のもと、ダニエル・カール副会長、森田副会長の3人によるパネル・ディスカッションを行いました。反響につきましては、(資料4)の「第1回シンポジウムに関するアンケート調査結果」としてまとめております。基調講演に対する感想と致しまして、「興味が湧いた」、「共感した」など肯定的なお答えを頂いた方が99.5%、やや否定的な回答が

0.5%(1名)でした。また、パネル・ディスカッションについても、同様に、肯定的な答えが95%にのぼり、好評であったことが分かりました。勿論、肯定的なご回答の中にも、アドバイスを多数頂いておりますので、今後の活動部会のディスカッションの参考にしたいと考えております。

(篠塚会長)有り難うございました。この美しい多摩川フォーラムという運動を起こして、まだ日が浅いのですが、色々な資料が次から次へと手元に送られてきて、なかなかまとめて頭に入れることが出来ないのですが、全国信用金庫協会の「信用金庫・11月号」に掲載される予定の原稿である(資料3)は、コンパクトに全体像がまとまっておりますので、これをお手元に保存して頂くと、何かと便利だと思います。全国信用金庫協会の良い企画に乗って、良い記述をして頂いたと思います。

#### (4)美しい多摩川フォーラム会員の状況について(資料5)

(宮坂事務局長)(資料5)のとおり、総会員数は、11月1日現在において472会員で、うち個人が415、法人が32、行政が25という内訳になっております。会員の勧誘につきましては、フォーラムの設立当初の事務が錯綜しており、あまり出来ておりません。口コミで増えているというのが実情です。アドバイザー委嘱は先ほどご説明したとおりです。また本日付で、NPO法人・多摩川エコミュージアム理事で地域史研究家の長島保さんに顧問を委嘱することになりました。長島さんは、多摩川の中・下流域でご活躍されている方で、今後、上流域の活動に対してもアドバイスを頂きたいと考えております。

(篠塚会長)只今のご説明ですと、個人会員が415人ということで、個人会員数はまだまだ少ないと思います。多摩川流域に住む地域の人々にいかに関心を持ってもらうかというのが、このフォーラムの運動を成功させる大きな源ですから、今後、個人会員の増強について知恵を絞っていききたいと思います。

## 4. 協議事項

### (1)平成19年度事業計画の追加・変更(案)について(資料13)

(篠塚会長)平成19年度事業計画の追加・変更について、事務局から説明をお願いします。

(宮坂事務局長)(資料13)の第1号議案ですが、美しい多摩川フォーラムでは、設立総会の第3号議案である平成19年度事業計画におきまして、来年3月に向けて「美しい多摩川100年プラン」の策定を決定しておりますが、このほど多摩川流域の自治体から、この「100年プラン」を支援する動きがありまして、新設となる多摩川流域都市協議会から以下の3つの事業案件を当フォーラムが受託すること、すなわち、平成19年度事業計画を追加・変更することにつきまして、ご協議をお願いします。ただし、この団体による助成につきましては、まだ正式には

決定しておりませんが、近く正式に決定されるとみられますことから、助成の正式決定を前提としてご審議頂ければと考えております。もし助成が正式に決定されますと、自治体による多摩川流域都市協議会と当フォーラムが、官民一体となって「美しい多摩川100年プラン」を推進していくということが期待されます。これにより、当フォーラムが提唱しております、地域経済の活性化、水環境の保全・創造、教育文化の振興と合わせて、自治体の広域連携活動の活性化、自治体と市民団体等の協働推進や市民活動の促進を求めて、お互いに連携・協働していこうというストーリーが描けます。

(篠塚会長)事務局の説明にありましたように、自治体の支援の形が正式に決定されたら、これを受託したいということ、ここで承認してほしいということです。

(宮坂事務局長)それでは、今回の追加・変更案の内容についてご説明致します。このフォーラムを立ち上げるにつきましては、経済、環境、教育文化という3つの軸を柱として、「美しい多摩川100年プラン」を推進していきたいということで、これまで、ご参加される個人、企業、NPO、行政などの会員の皆さんにご説明して参りました。また、会員の皆様からは、そういう方向でプランを進めて行って良いのではないかと、というコンセンサスがあったことを前提に、追加・変更案をまとめてみました。

#### **多摩川夢の桜街道プラン関係：**

(宮坂事務局長)まず、経済についてですが、「多摩川夢の桜街道プラン」の実現に向けた調査・研究事業です。19年度中に基本コンセプトの作成、ニーズ調査、サクラの現況調査、桜による観光戦略、ホームページ等の広報戦略、桜守のあり方の策定などを考えております。サクラの現況調査につきましては、独立行政法人・森林総合研究所の多摩森林科学園にお願いする予定です。このように、経済につきましては、「多摩川夢の桜街道プラン」を推進していくことを考えております。

(篠塚会長)只今の説明につきまして、「多摩川夢の桜街道プラン」がフォーラムのシンボリックなプランということで、費用が500万円位かかるということですか。

(宮坂事務局長)このあとにご説明する環境と教育文化の2つの事業も含めて、全体で500万円ということですか。

(篠塚会長)分かりました。19年度に桜の現状調査を行い、ホームページはこれからのフォーラムの広報戦略として真剣に考えていきたい、というようなことが課題となっています。

(細野部会長)広報戦略は非常に大事な話でありまして、この多摩川流域の人たちに桜の現

状調査の調査員になって頂けたらと思っています。何故かと言うと、私が国土交通省でツバメの GIS をした際、ツバメの位置を全国から携帯電話などで連絡してもらい、地図上にプロットして、時系列的にどこまでツバメが巣を作るのか、帰りはいつ出ていくのか、そういうことが分かりました。ブログの世界やインターネットの世界ですから、研究上のきちんとした形でデータを補完するようにして、地域の人たちが IT 上で参加できるような仕組みづくりが出来たらいいと思います。

(篠塚会長)最初の経済の提案に対して、細野部会長から、地元の調査員にお手伝いを頂いてはどうかということですが、これはなかなかいい提案だと思います。ここでは皆さんからご意見を頂いて、今後、実際に受託することになったら部会におろすということで、ここではご意見をお聞きしたいと思います。なければ次に進みたいと思います。

#### 多摩川一斉水質調査プラン関係:

(宮坂事務局長)次に、環境についてですが、多摩川の水環境の保全に向けた調査・研究事業です。多摩川の水質調査については、従来から中・下流域では盛んに行われておりますが、手薄の感のある上流域を巻き込んで、多摩川の一斉水質調査をしようというものです。これにつきましては、私どもフォーラムの小倉顧問にご指導をお願いしたいと思っております。小倉顧問は、水質調査では全国レベルで非常に実績があり、一番適任の方です。小倉先生からお話を頂ければと思います。

(小倉顧問)只今ご紹介頂きました小倉です。今回の事業の意義と目的について説明をさせて頂きます。お配りした追加資料2枚(別添)のうち、「身近な水環境の全国一斉調査」の資料についてお話しすると、近年、河川や水辺など身近な水環境の保全・修復に関する市民の関心が高まり、市民による「身近な川の一斉水質調査」が1980年代半ばから、多摩川流域(浅川、野川を含む)で行われるようになってきました。市民の手による調査なので、あまり難しい方法は出来ないため、簡易な方法で行っております。水質の精度は十分には保証されていないし、方法もまだまだでして、こうした中で市民の取ったデータを有効に使うためには、統一的なマニュアルを作成し、精度を高める必要があります。それを色々な場所で比較することにより、行政で補完されるような有益なデータになるのではないかと考えました。私たちも1989年から主として浅川・秋川流域を中心に「身近な川の一斉水質調査」を行っています。毎年1回、6月の第1日曜日に実施し、本年6月で19回目を迎えております。このように、多くの市民や学校の子供たちが、統一的な調査マニュアルに基づいて「身近な水環境の全国一斉水質調査」を行い、結果を分かりやすいマップとして作成すれば、全国の状況が一目で分かり、これは市民の身のまわりの水環境への理解と関心を高めていくものと期待されます。その面で実績のあった私たちは、「みずとみどり研究会」という任意団体を立ち上げました。それに、全国の市民団体や、趣旨にご賛同頂いた国土交通省、財団法人・河川環境管理財団と連携し、2004年か

ら「身近な水環境の全国一斉調査」を開始しました。今年の全国一斉調査は6月に終わり、全国47都道府県の計5,470地点で調査が行われ、目下、結果をまとめているところです。

次に、「あなたの川はきれいですか？」という浅川流域マップの資料についてご説明します。川の汚れの程度を示す指標であるCODを3段階の色で分けて、マップに色で表現し、川のきれいさや汚れを一目で分かるようにしました。これは環境学習の教材にも利用され、子供たちにも好評です。私はこのようなマップ作りを以前から多摩川全体で実施したいと考えておりましたが、市民団体だけではとても手に負えません。今回、美しい多摩川フォーラムが、多摩川の源流、上流から下流まで、一斉水質調査を行おうとしていると聞き、丁度良い機会なので是非ご一緒にとお願いをしました。19年度の一斉水質調査では、多摩川流域の色々な市民団体が400地点で調査を行っていると思います。そこで、当フォーラムの19年度事業計画では、今年度の全国一斉水質調査の結果をもとに、多摩川流域の一斉水質調査の測定結果についてのデータベースを作り、水質マップを作成したいと考えております。また、来年度は実際にフォーラムの会員が一斉水質調査と一緒に参加し、結果を持ち寄って、多摩川全流域の水質マップを作りたいと思っています。浅川の小さな流域のイメージマップと同じようなマップが多摩川流域全体で作成できます。すると、一目で、多摩川のどこで、どういう水質で汚れているのかが分かり、市民や子供たちにとっても、環境学習、水環境の理解と関心が高まるため、多摩川の保全につながるのではないのでしょうか。繰り返しになりますが、「多摩川一斉水質調査」につきましては、19年度は、6月に調査した水質データに基づいてデータベースを作り、多摩川の水質マップを作ります。次に、20年度は、実際に当フォーラムの会員と一緒に水質調査を行い、より広範囲にデータを集め、その結果を分かりやすいマップ(水の汚れのマップ、CODという水の汚れを表す指標のマップ、気温・水温のマップ)にまとめていくことと致します。さらに、全国一斉水質調査では気温と水温を測っておりますので、当フォーラムも独自に多摩川の上流、中流、下流の気温と水温を測り、同じようにマップに表示すれば、地球規模の地球環境問題や地球温暖化の影響について知ることが出来ると考えております。どうぞよろしくお願ひ致します。

(篠塚会長)有り難うございました。とても良い説明だったので、水質調査のイメージがハッキリしました。まず、水質の基本的調査データが初歩的情報として必要なので、「多摩川一斉水質調査」を成功させるべく、その方向で私たちのフォーラムの中で是非取り上げたいと思います。「多摩川一斉水質調査」の調査研究事業を受託するに当たって、19年度の事業(データベースとベースマップの作成等)については、総額500万円の中から充当するとして、来年度に会員が増えて、子供たちが参加し、いよいよ一斉水質調査を始めようとした時、その費用はどのくらいになるのか教えて下さい。

(宮坂事務局長)20年度の事業計画については、のちほどまとめてご説明致しますが、事務局で現在検討中の20年度の一斉水質調査にかかる調査研究事業費は60万円程度と考えて

おります。

(小倉顧問) 来年度に一斉水質調査を行うとすれば、まず、調査に必要な機材・器具(パックテスト、簡単な測定容器)のご提供を事前に国土交通省にお願いし、ご承認頂ければ、無料でこのキットは配布してくれます。ただ、水質調査の取りまとめについては費用がかかります。

(篠塚会長) 一斉水質調査に当たっては、会員数が増えなければ話にならないので、今後、いかにして会員数を増やしていくかが、当フォーラムの大きな課題だと思います。

### 多摩川流域の「水辺の楽校」等の一斉連携活動に関する調査・研究事業

(宮坂事務局長) 最後3番目の教育文化についてですが、多摩川流域の子供の教育に関しては、「多摩川の森の環境教育」として、既に環境清流部会と教育文化部会が合同で進めております。一方、それとは別に、多摩川流域には「水辺の楽校」という国土交通省等の支援を受けて活動しているグループが、中・下流域を中心に数多くありますが、上流域はまだ少ないので、これも一斉水質調査と同様に、上流域を強化しつつ、多摩川の上流から下流まで「水辺の楽校」等を中心に子供の環境学習を連携してやっていこうというプランです。「美しい多摩川100年プラン」では、我々の世代が高齢化した時、今度は次世代がいかに「100年プラン」を受け継いでくれるのかという観点からも、教育の部分に大変期待をしているところです。「水辺の楽校」の活動の第一人者であり、狛江水辺の楽校の副代表を務める竹本運営委員に、この分野のリーダーになってほしいと、事務局としては考えております。水辺の楽校のネットワーク化について、竹本委員に簡単なお説明をお願い致します。

(竹本委員) 「水辺の楽校」とは、国土交通省が始めた地域の子供たちの河川親水プロジェクトであり、全国で現在249ヵ所が認可されております。水辺の楽校のメリットは、認可されますと、国が水辺へのアクセスの確保のために河岸に階段、スロープの設置などの河川工事を始めてくれます。初期工事が終わると、水辺の教育の機会を作って情報提供するなど、ソフト面で携わることになっております。昨年まで財団法人の河川環境管理財団から支援を受け、多摩川流域15ヵ所のネットワークを作りました。今年は助成が終了し、昨年のような活発な交流や新聞の発行が出来ませんでした。ネットワークがしっかりできると、例えば、下流の子供たちがしっかり勉強し、小学校5年生になると、上流に行って体験学習をしたり、あるいは、さらに下流に行き、河口の勉強をすることができます。その際、従来は受入窓口がなかったのですが、「水辺の楽校」の連携により、つながりが深くなりました。今回の当フォーラムのプロジェクトについては、「水辺の楽校」を核にさらにその他の活動団体も含む広域ネットワークの構築を通じて、多摩川の中にさらに大きな「絆」が生まれてくるのではないかという期待感を持っております。

(篠塚会長) よく分かりました。資料に書かれている事前調査ですが、こういったことを事前調



査としてイメージしたらいいのでしょうか。

(竹本委員)フォーラムのプロジェクトとして仕立てていくために事前ヒアリングを行い、調査物としてまとめていくことになるかと思えます。

(井上委員<青梅・多摩川水辺のフォーラム事務局長>)多摩川の天然溯上アユが府中で上がれなくなっているため、2年前に下流の川崎から天然アユを運んできて、青梅の釜の淵で放流した際に、狛江水辺の楽校の竹本副代表と出会い、「いつか青梅と狛江の子供たちが一緒に多摩川でアユを放流し、遊べる日を夢見て頑張りましょう。」と申し上げたことを今でも鮮明に覚えております。青梅は多摩川が綺麗なため観光という観点では進んでいると思えます。しかしながら、いじめや自殺など地域の教育や社会が崩壊に瀕しており、流域の歴史文化が崩れていく中で、「水辺の楽校」は、川を通じて教育や文化を生き返らせる一番の元になるのではないかと考えており、皆さんの応援を頂いて、青梅も仲間に入っていきたくて希望しております。

(篠塚会長)「狛江水辺の楽校」と「青梅・多摩川水辺のフォーラム」のリーダーが当フォーラムにご参加頂き、心強く思います。多摩川流域の水辺の楽校等のネットワークプランを是非成功させて行きたいと思えます。

それでは、第1号議案の内容ということで、3つのプロジェクト(多摩川夢の桜街道プラン、多摩川一斉水質調査プラン、多摩川流域の水辺の楽校等のネットワークプラン)がありますが、「いずれも東京都市長会の事業承認がおりたらという条件付きで3つの調査研究事業を19年度に実施する」というものが第1号議案です。これは協議事項でありますので、この第1号議案につきまして、ご賛同出来ますでしょうか。(拍手)。反対のご意見はありませんでしたので、第1号議案は承認ということにさせていただきます。有り難うございました。

(森田副会長)第1号議案について、事務局の言い回しが多少微妙な表現になっているのは、本件に関する東京都市長会の審査が現時点で終了していないからであります。今後、東京都市長会の決定に際して、万一、計画の中身が変わってしまった時に、運営委員会を再度開催するのか、それとも、委員の皆さんから予め会長にご一任を頂けるのか、この場で決めて頂けないでしょうか。

(篠塚会長)分かりました。

(宮坂事務局長)その件につきましては、恐らく変更はないと思っておりますが、万一、そのような事態が生じた場合には、改めて運営委員会を開くことは困難だと思います。フォーラムの規約でもそうした事態に備えて、「文書の持ち回り決裁」という方法(第12条第6項)を用意してあり

ますので、変更があった時には、「持ち回り決裁」による対応をさせて頂ければと思います。  
なお、市長会の申請承認は11月9日と聞いております。

(篠塚会長) それでは事業計画の内容が変わる場合には、「持ち回り決裁」により対応させて頂くことで、よろしいでしょうか。(拍手)。有り難うございました。

## (2) その他(サクラの現況調査についてのご願い)(資料6、資料7)

(篠塚会長) 次は協議事項の2番目として、「その他」がありますので、事務局からご説明をお願いします。

(宮坂事務局長) 協議事項「その他」でございますが、先ほど19年度事業計画の追加・変更ということで、「多摩川夢の桜街道プラン」をご承認頂きましたが、多摩川流域における桜の実態調査が前提となります。では、その実態調査をどのように実施すべきかについて、事務局でも色々検討してきましたが、多摩の桜、東京の桜と言えば、森林総合研究所・多摩森林科学園(元林野庁浅川実験林)が思い起こされます。昭和41年から全国各地の桜がサクラ保存林に植栽され、研究されております。その森林総合研究所に、桜の分類を研究されている方がいるという話を伺っております。それでは、桜の実態調査につきまして、当フォーラムの運営委員でもある森林総合研究所・多摩森林科学園の藤井園長からお話を伺いたいと思います。

(藤井委員) 多摩森林科学園の藤井です。以前、多摩森林科学園に勝木という研究員がおりまして、現在は人事異動でつくば市の本所に勤務しておりますが、彼は当園に勤務していた時には、桜の分類、特に自然交配種について研究しておりました。宮坂事務局長から桜の実態調査のお話を受けた時に、勝木研究員に「多摩流域で実際に桜の実態について調査・研究してみてもどうか」と聞いたところ、やろうということになり、それで3人(藤井園長、勝木研究員、宮坂事務局長)でここ2ヵ月くらいやり取りして、まずはアンケート調査から始めるということにしました。桜と言えば、「ソメイヨシノ」と思われがちですが、山桜など自然交配種に近いものもあります。将来のことを考えると、一斉に開花する「ソメイヨシノ」のような花より、長生きする山桜など、大木になるものも植栽の対象として考えていくのも良いかなと考えているところです。まずは自然科学的な調査が必要です。実際に植栽されている桜を調べるほか、それぞれの地域で、どういう桜が自慢されているのか、あるいは人に見せたい気になるのかを教えてください。それが本当に「ソメイヨシノ」であるのか、それとも他の品種であるのか等について検証しながら、基本的なデータマップを作ることが今回の研究の目的です。

(宮坂事務局長) (資料6)、(資料7)をご覧下さい。(資料6)はかなり本格的な桜の実態調査になります。(資料7)はやや簡素ですが、植栽された桜のうち名所のような所を記載して頂きます。さらに、この調査をベースにして、桜の観光戦略の可能性を検討する訳ですが、『夢の桜

街道』という形で、札所巡りの観光ルートを設定することにより、観光による地域経済の活性化につなげていきたいと考えております。

(篠塚会長)協議事項(2)の「桜の現況調査についてのお願い」ということで、(資料6)と(資料7)のご説明を頂きました。差し当たっては、直ぐに調査にかかりたいとのことですが、(資料6)は行政機関に配布するものですね。

(宮坂事務局長)まだ柔らかい話ですが、今後3年間で少しずつ調査を重ねていきたいと考えております。その第1弾が(資料6)になります。行政での調査が終わった後も、桜を植樹する民間団体もありますので、そちらにも趣旨を説明して、隙間なく調査を行い、桜の実態調査を完了させたいと思っております。(資料7)は、2～3週間後に行政にお願い出来ればと思っております。まずは行政において蓄積されている行政情報をご開示頂ければ有り難いと考えています。美しい多摩川フォーラムを設立する際、行政の環境関係の窓口では、行政情報を開示するに当たり問題ではないとのことでしたので、このようなアンケート調査の方法をとらせて頂きました。

(篠塚会長)おそらく森林総合研究所の中では、この種の調査・研究を幾つも行っていると思いますので、行政にもご協力して頂いて、アンケートが回収されやすいように、また、基本的な情報が抜けていないかどうか、も含めて検討した上で、対応して頂きたいと思えます。「サクラの現況調査」について、アンケートを行うという企画について、詳細についてはさらに練って頂きますが、反対がなければ、このような方向でいくことでよろしいでしょうか。(拍手)。有り難うございました。それでは、協議事項(3)その他の「20年度事業計画に向けて」について、事務局より説明をお願いします。

### (3)その他(20年度事業計画に向けて)(資料8)

(宮坂事務局長)先ほどご説明申し上げました東京都市長会からのご支援については、近日中に決定が下されると思いますが、順調に行けば、すぐに20年度事業計画の策定に向けた検討に入っていくことになると思っております。先ほどご承認頂いた19年度の3つのプランにつきましては、20年度はその展開の事業を考えているのですが、本件につきまして、皆様のご意見を伺いたいと思えます。一方、(資料8)については、当フォーラムの設立時に、フォーラムが当面どのような事業を想定しているかについてまとめたものです。当面20年度ですが、美しい多摩川フォーラムの第2回総会を平成20年5月17日に開催予定と記載されていますが、これはあくまでも仮置きのもので、今年7月に設立総会を開催しましたが、今後の運営を考えると、第2回目の総会があまり遅い時期に開催されると、4月以降、身動きが取れないので、今後は、5月に開催されるのが適当だと考えております。そして、第2回総会では、19年度事業計画の決算の承認、20年度事業計画案の承認、美しい多摩川100年プランの承認、

の3つを議決・承認して頂けたらと考えています。その後の運営につきましては、これも仮置きですが、運営委員会を4回程度、各活動部会も4回程度開催させて頂きまして、「美しい多摩川100年プラン」を推進し、「20年度の事業計画」を実施していきたいと考えております。また、小倉先生のご指導のもとで「多摩川の一斉水質調査(平成20年6月8日)」、「多摩川1万人清掃大会(平成20年8月3日)」、「フォーラムのシンポジウム(平成20年9月頃)」を考えております。さらに、新規に「美しい多摩川フォトコンテスト」を実施し、観光用も含めて写真情報を蓄積し、その写真を色々な場面で使っていくなど、フォーラムの地域づくりに活用していきたいと考えております。これから皆様の議論を踏まえ、今後開かれる各活動部会にも落とししていきたいので、良いアイデアがありましたら、是非ご意見をお聞かせ頂ければと思います。

(篠塚会長)有り難うございました。(資料8)について、平成19年度に実施したこと、20年度にかけての計画案の説明を頂きました。開催日程のご希望だけでなく、新たに20年度事業計画に入れた方が良いという案件があれば、ご意見を伺いたいと思います。

(竹本委員)ご提案ですが、年度定例事業の中に、「美しい多摩川フォトコンテスト」がありますが、私たち「狛江水辺の楽校」では、毎年「子供シンポジウム」を開催しております。冊子を作り、子供や関係者に無料配布しておりますが、「子供シンポジウム」とフォトコンテストが連動できたら良いと思います。これまで毎年、狛江を中心に実施しておりますが、多摩川の「水辺の楽校」等のネットワークが構築された暁には、今年は青梅でやってみるとか、来年は日野市でやるとか、現に日野市や昭島市等の「水辺の楽校」が活発に活動されていますので、「持ち回り開催」にして、美しい多摩川フォーラムが支援していく体制が出来ても良いのではないかなと思いました。

(篠塚会長)良い話ですね。部会の方で検討して頂くことにしましょう。

(小倉顧問)私も賛成です。日野市の「水辺の楽校」や「子供シンポジウム」にも参加させて頂き、大変勉強になりました。ただ、それぞれのグループにも何かと事情もありますので、同じ日に一斉に連携するよりは、同じ月に「水辺の楽校の連携強化月間」みたいな形で一斉にやって、その中の成果の1つとしてフォトコンテストを行うのが良いと思いました。

(井上委員)私も竹本さん、小倉先生の意見に賛成です。因みに、私たち「青梅・多摩川水辺のフォーラム」では、第2回フォトコンテストを、11月20日～28日に青梅信用金庫本店のギャラリーで開催する予定です。子供シンポジウムの件ですが、以前、狛江の体験発表会に参加しましたが、大変感心しました。というのは、多摩流域の子供たちが300人も集まり、生き生きと発表していたのです。残念ながら、青梅は参加していませんでした。「水辺の楽校・体験交流会」のようなものと写真を結びつけるのは、良いアイデアだと思います。

(篠塚会長)有り難うございました。一つ一つの事業を単発に行わないで、連携することで非常に大きな相乗効果を生みます。そういうことを上手く考えていきたいということでした。

(日下・昭島市企画部長)フォトコンテストのご意見、大変素晴らしいものだと思います。ところで、フォーラムの事業をこの地域だけでなく、日本中に情報発信しようという、もう一步高いレベルで考えるならば、自ら実施しようとしている事業やイベントにこだわることなく、例えば北海道からふらっと上京してきて、多摩川を見た時に桜の写真を撮ったというもので、応募対象とするなど、もっと視野を広げ、フォトコンテストの広報を仕掛けるという方法も、ある意味で発信力があると思います。手近な事業を一生懸命やって頑張ることも大切だと思いますが、そこを基盤にしながらもう一步視野を広げ、両方から見ていくのも一つの発想だと思います。事務局は大変でしょうが、多角的な視点の中から最小の経費で最大の効果のある、フォーラムの事業に成長させていくことを期待しております。

(篠塚会長)はい、分かりました。このフォーラムでは、多摩川の流域に会員の範囲を限定しておりませんので、全国から多摩川に来て頂き、事業にご参加頂くことは非常に大事なことだと思います。ここまで特に質問などありますか。無いようなので、協議事項(4)その他の「今後の広報に向けて」について、説明をお願いします。

#### (4)その他(今後の広報に向けて)(資料9)

(宮坂事務局長)(資料9)は、美しい多摩川フォーラムのホームページのトップ画面です。ホームページの存在をあまり宣伝していないこともあり、アクセス数はさほどの数字ではありません。フォーラムの会員の底上げのためにも、ホームページの活用は重要です。今後、いかに広報を充実させていくべきか、皆さんにご意見を伺いたいと思っております。本日はご出席されていませんが、フォーラムの運営委員で、JR東日本・八王子支社長の高野さんには、フォーラムの会員募集について非常にお力になって頂いております。青梅線の駅頭(立川駅、昭島駅、東青梅駅、青梅駅、奥多摩駅)にフォーラムの会員募集のポスターを掲示して頂いたほか、9月のフォーラムのシンポジウムの際にも、開催案内のポスターを掲示して頂きました。事務局としては、まず手作りのフォーラムのホームページを発展させること、また、多摩川夢の桜街道プランが承認されましたら、20年度の事業計画として、観光サイトとして使えるような、プロ仕様のホームページを別に考えております。一方、個人会員の底上げについては、事務局からの提案ですが、「お試し会員制度」を導入することを考えています。フォーラムのことが分からない、ちょっと気にはなるけれど、会費1,000円を払うのは躊躇すると言われる方のために、19年度中はお試し期間として、無料で活動部会に出席できるようにしたいと考えております。広報は大切なので、皆さんのアイデアをお聞かせ願えればと思います。

(篠塚会長)フォーラムのシンポジウムを開催しましたが、立ち上げだけで精一杯で、広報はほとんどしておりません。フォーラムのホームページを魅力的なものにするために、プロの人の手をいれる、ダニエル・カールさんに表舞台に出てもらうなどして、ホームページを拡充させる必要があると思います。また、「お試し会員」の提案についても、やれそうなことはやってみると良いと思います。これらを含めて何か会員を勧誘する方法について、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

(細野部会長)私は産学官連携の「ネットワーク多摩」を運営しておりますが、先日、宮坂事務局長から「ネットワーク多摩」にフォーラムの団体会員になってほしいというお話がありまして、内部で議論しましたが、見送りとなりました。そこで問題になったのは行政です。行政はネットワーク多摩を支援しているので、そのネットワーク多摩から団体会員としてフォーラムの会費を納入するという事は、行政が2重にお金を取られることになるので問題である、ということでした。同じ広域でやるとしても、連携も切り分けもはっきりしていないため、即会員加入とはいかない、という話です。しかし、連携することによる相乗効果として、広報面、会費面に好影響があることは間違いないので、これからどういう形で連携すべきかを模索すべきだと思っています。私たちがこのフォーラムと一緒に活動をしていきたいと思っていますので、これからも断続的に組織構成を考えて頂けたらと思います。

(篠塚会長)有り難うございました。これからも一緒に考えていきたいと思っています。会員の獲得に当たっては、会員にどういうメリットがあるのか、具体的に提示していかなければ、会員を増やすことは出来ません。今後、会員を増やしていくために、私たちとしてはまず、初年度に良い企画を提示し、次年度はそれをアピールしていく。少しずつですが、しっかりと広報し、実行していく必要があります。広報は非常に大切なので、時間をかけながら、しかしスピードを上げて考えていきたいと思っています。また、緊急を要する大事なことです。今後、何か良いアイデアがあれば、事務局までお願いします。私は最初にきちんと大きく新聞広告などでアピールすることが大事だと思っていましたが、会員数の面からお金も足らず、出来ませんでした。しかし、少なくとも1周年目など、けじめの時にはしっかりと対応すべきだと思っています。

(篠塚会長)さて、協議事項の(1)から(4)までご説明頂きました。協議事項(1)の「平成19年度事業計画の追加・変更(案)」についてはご賛同を頂きました。また、協議事項の(2)、(3)、(4)については、皆様から貴重なご意見を頂き、事務局提案の方向で検討していくことについて、反対の意見はなかったと理解しておりますが、それによろしいでしょうか。はい、有り難うございます。すべての協議事項について、皆様からご賛同が得られました。それでは、事務局にはその方向で対応をお願いします。

## 5. 報 告

### (1) 美しい多摩川100年プラン策定に関するワークショップの立ち上げについて

(宮坂事務局長) 美しい多摩川100年プラン策定に関するワークショップの立ち上げに当たり、「美しい多摩川100年プラン」の骨格を考えていく際には、行政と民間(個人、NPO、企業等)の役割や、切り分けをしっかりと固め、このプランがどういう形で運営されていくのかを整理していく必要があります。100年プランですから、色々な提案や議論が出てくるというだけでなく、長期的な課題も見えてくると思います。これから出てくる議論を整理整頓し、そういったものを盛り込んでいって、最終的には、フォーラムの「100年プランのパンフレット」のようなものを作りたいと考えております。事務局としては、広域連携・協働の観点から、行政にも是非参加して頂きたいと考えております。ただ、20を超える市区町村の行政に集まって頂くのも大変ですので、事務局としては、幾つかの自治体の方のご参加を、当該市区町村に仰ぎまして、「ワークショップ」という形で、作業部会を立ち上げたいと考えております。作業部会の議論については、それなりのレベルに達しましたら、皆様に開示して意見を仰ぐ段取りを考えています。以上のとおり、事務局としては、ワークショップを早急に立ち上げたいと考えております。

### (2) その他～3つの活動部会の始動と広報のお願いについて(資料10)(資料11)

(宮坂事務局長) いよいよ活動部会が始動します。今回の第1回運営委員会の結論や東京都市長会の結論の出具合を確認したうえで、それぞれ1回目の活動部会を開催したいと思っています。その関係で、(資料10)、(資料11)にありますように、第1回地域経済活性化部会を11月21日に、それから第1回教育文化部会と第1回環境清流部会を合同で11月29日にそれぞれ「羽村市・生涯学習センターゆとろぎ」において開催しますので、広報も含めてよろしくお願い致します。

(篠塚会長) 部会の活動では、部会長さんにご苦勞をおかけしますが、是非よろしくお願い致します。ここで何かご説明ございますか。

(下重部会長) 教育文化部会をお預かりする立場として、「美しい多摩川100年プラン」、「19年度事業計画」が見えてきましたが、それぞれの計画において、いつも子供たちの視点、次世代を育成するという視点を、どの事業においても大切にしていきたいと思っています。今ほど子供たちを粗末にしている時代はないと思います。子供の「水辺の楽校」も素晴らしいですし、多摩川の水質調査や桜の調査にしても、子供たちが参加できるような総合的な学習時間が削られる時代ですが、例えば、そういう時間を通して、多摩森林科学園に見学に行きながら地域の桜を調査するなど、地球環境を思いやるとか、次世代を育てる視点を常に念頭に置いて頂ければと思います。

(篠塚会長) 次世代を育てる視点を、どの部会においても忘れないでほしいという貴重な意見

を頂きました。

(武井委員 <京王電鉄広報部長>)京王電鉄では、目下クリーンキャンペーンを行っております。11月17日に、聖蹟桜ヶ丘にある本社から多摩川の交通公園までの支流のところで、毎年クリーン キャンペーンを10数年続けておりまして、春には高尾山でも実施しております。高尾山では、今はごみを持ち帰りとしているので綺麗になっていますが、初めは凄かったです。先日、多摩川が氾濫したので、今回はごみが多そうですが、社員も毎年多数参加しています。

(篠塚会長)人を束ねると大きな力になりますし、何らかの形で連携していくことは大切です。京王電鉄のクリーンキャンペーンは非常に良い連携の仕方だと思います。

(宮坂事務局長)「多摩川夢の桜街道プラン」について一言申し添えますと、同プランは、桜の植樹だけでなく、1代限りのソメイヨシノの老齡化対策など、桜の再生・保護の取り組みにも力を入れていきたいと考えております。その桜の再生・保護に取り組む人やグループとして、「桜守」が非常に重要になってきます。したがって、今後は地域の桜を守り育てようとするグループとの連携が非常に大切です。当地には、「国立の桜守」である大谷和彦さんという、全国的にも有名な方がおられます。大谷さんは活動の中で、子供の学校の課外学習を活用し、桜守として地域づくりに力を尽くしておられます。当フォーラムの運動にもお手伝いをお願いしております。「多摩川夢の桜街道プラン」には、次世代を育ていく側面があることを付け加えたいと思います。

さて、話は変わりますが、夏の台風の影響や大雨などで多摩川の水質が悪化しており、先般、国土交通省京浜河川事務所の鈴木所長さんにお伺いしたところ、多摩川の白濁化した状態を濁化現象と呼ぶそうですが、これだけ長いのも珍しく、これが続くと生態系にかなり悪影響を及ぼすとのことで、大変心配されておりました。今回、運営委員のうち北斗理研の山崎社長が、源流から羽村堰までの多摩川の本格的な水質調査をされていますので、是非、その辺のお話をお伺いしたいと思います。

(山崎委員)宮坂事務局長からご説明がありましたが、当社では、多摩川の源流の丹波山や小菅から羽村まで全長9キロに亘って水質を調査しています。これは東京都水道局さんの検査装置でして、私どものほうでデータを見れるようにしてあります。当社が独自にデータを取っているわけではないことをお含み置き下さい。実は先日の台風で、奥多摩では600ミリというものの凄い雨量を記録しております。後山川、小菅川など、3ヵ所に雨量を測る機械を設置してありますが、今回の大雨で河床から3メートルのところまで土砂が溜まっておりました。と言うことは、奥多摩湖、小河内ダムに非常に多くの土砂が流れ込んだと予想されます。全国のダムを見ましても、非常に長い間、濁ることがありますが、今回の小河内ダムのように、ダムが完全に濁ることは珍しいことです。九州に川辺川ダムという大きなダムがありますが、平成17年に台風



遭いまして、去年まで1年間濁っておりました。今でも濁っておりますが、その砂が非常に細かいそうです。川辺川ダムでは4ミクロンと非常に細かい粒子で、湖底には沈みませんでした。今回の小河内ダムの場合も、これまでの砂と違い、今回の濁流で川岸が掘り起こされて発生した微粒の砂ではないかと思われまます。私もまだ見ておりませんが、山が相当荒れているのではないかと考えています。これから大雨が降る度に小河内ダムが汚れていくのではないかと心配しております。以前は、アオコの水質問題で心配でしたが、濁りがこのまま続くようなら、濁水問題は非常に大きな水環境の問題となってきます。もう少し経ちませんと分かりませんが、今の濁りは非常に珍しい状態にあると考えられます。全国的にこういうダムは多くあります。四国では早明浦ダム、三重では電源開発の2つのダム、石川県に行きますと手取川ダムがありまして、これは白山から土が入るそうです。それらのダムに共通なのは、粒子が非常に細かいというのが特徴です。今回の小河内ダムでは、恐らく粒子の細かい地層まで崩壊が進んでいったのではないかという気がします。今はダムの水を横から出しているのです、まだ分かりませんが、当分の間、来年くらいまで続くのではないかと考えられます。

(中村・青梅市都市開発部主幹) 青梅市都市開発部は、青梅市の国道や多摩川の窓口になっております。これから御岳渓谷の観光シーズンに入りますが、紅葉と澄んだ多摩川ということで全国的にも有名なのですが、最近、観光協会や漁協の方から、多摩川の濁りに関するご質問があり、東京都水道局や国土交通省にご質問させて頂いたところ、只今の山崎委員のお話にもありましたように、現在、奥多摩湖には底に沈まない重さの細かい粒子が入っており、これがダムの外に出ない限り、水は綺麗にならないと聞きました。そして今回、相当な雨が降ったので、来年の春頃まで濁りは続くと思われました。ただ、濁った水の下に綺麗な水があるとのことであり、綺麗な水を先に出すことは出来るそうです。しかし、綺麗な水を先に出したとしても、綺麗な水が出た後、また上部の濁った白い水が出てくるとのことであり、結果的には同じとのことでした。私たちも東京都の水源管理事務所さんに相談しようと思っておりますが、具体的な打開策がないというのが実情のようです。1つの参考事例ですが、先日、埼玉県秩父市の裏山ダム、サクラ湖に行ってきました。ここでは水の濁りに対応するため、上流で降った大雨の水について、ダムを直接通過させないで、バイパス的に水を通す、いわゆる清水バイパスをつくり、大雨の水を先方に流しているそうです。ここで工事が完成したとのことで、6キロ上流から直接水を落とす工事費が30億円かかると聞きました。例えば、小河内ダムで同様の工事を実施したら、その費用は相当な額にのぼるとのことでした。

## 6. 篠塚会長閉会挨拶

非常に貴重な多摩川の情報を有り難うございました。本日の議題は以上ですべて終了致しました。一番大事なところは、協議事項の「平成19年度事業計画の追加・変更」について、皆様からご了承が得られたこと、委員の皆様と様々な情報を交換することが出来たことです。内容としては、経済、環境、子供の教育と、最後は多摩川の水の濁りをどうするかという非常に難

しい問題にまで広がり、私としては、さしずめ「多摩川圏庁」の知事になったような気分です。まだ100分の1の歩みに過ぎませんが、今後、出来るだけ早い時期に具体的な一歩を踏み出すということと、出来るだけフォーラムの運動を大きな力とするために、多くの方に会員になって頂けるよう努力するということを確認して、本日の運営委員会を終えたいと思います。本日はどうも有り難うございました。(拍手)。

以 上